

〈京都支部〉
**京都での外国人留学生の
 就職支援事業について**

はじめに

去る五月二五日、京都において留学生の就職支援を目的とした事業「第三回 外国人留学生のための就職ガイダンス&ジョブフェア」が京都駅前にあるキャンパスプラザ京都で開催された。これは京都地域留学生交流推進協議会と滋賀県留学生交流推進会議の主催によるもので、大学等との連携を図りながら日本学生支援機構京都支部が事務局となり実施された。今回の就職支援事業の実施について、現下の留学生の就職活動状況に触れながら述べてみたい。

就職ガイダンス&ジョブフェアの開催

多くの留学生が日本での就職を希望しているが、就職について、あるいは就職活動のスタイルについて理解していないのが現状であり、留学生に理解してもらい、また今後の就職活動に活かしてもらうために開催され、今回で三回目の実施である。当日の参加者は留学生が約二〇〇名、企業が二二社であった。留学生には受付で解説書、エントリー

シート等が渡され、おおよそ左記の通り講演等が行われた。

◇就職ガイダンス 一三・〇〇〜一五・四〇

- 講演 一 日本での具体的な就職活動の進め方
- ↳ 就職活動の全体的な流れやマナーについて
- 二 外国人留学生経験談

- 三 実践的就職対策講座「企業が求める人材とスキル」
- 四 ビザ（在留資格）の諸手続き

↳ 留学から就労ビザへの変更について

◇ジョブフェア 一三・〇〇〜一七・〇〇

留学生を募集する企業による説明会

対象：二〇〇六年三月卒業見込みの留学生

参加留学生は皆、就職に対し強い関心を持っており、終始メモをとりながら熱心に聞き入っていた。質問を促されると予定時間を超えるほど数々の質問が出た。就職に関して、あるいは就職活動について知っておくべき情報の不足や、日本人学生とは異なる留学生ならではの疑問等について、この機会を得て補うことができたのではなかろうか。

ジョブフェアでは、参加企業と留学生の間にズレが生じていた。参加企業の多くが理工系留学生を希望していたのに対し、参加留学生は多数が文系学生であったためである。就職支援についての課題

経済活動のグローバル化により国際的かつ優秀な人材の確保を必要とする企業が増えてきたが、留学生たちの間で

日本での就職についての方法や、そのための企業情報を得る方途についてあまり知られていない。

ある留学生によると、就職活動は日本人学生と同じような方法でやっている。情報は先輩（日本人）に聞いたり、ネットで調べたり、大学のキャリアセンターを利用しているが、戸惑いを覚えることが多いと言う。また、大学は忙しく、アルバイトもしなければならず、他の勉強もあり就職だけに没頭できないというのが現状であり、日本での就職を希望する留学生は大変であると。また別の留学生は、本人を含め友人のほとんどが大学院への進学を選択したとのことである。就職を選択した場合は、日本人学生と同じ方法で就職活動することになる。大学院修了後の進路を尋ねると、その時考えるとのこと。そして、「おそらく外国で就職するのは難しいので帰国のつもりである」と付け加えた。

現在の留学生の就職サポート体制では優秀な人材の確保が難しく、地域社会の活性化や共生化への大きな損失になるとも考えられる。

ところで、京都地域留学生交流推進協議会が二〇〇三年に京都地域の留学生約三六〇〇名を対象にした就職に関するアンケート調査を実施したが、この中で「あなたは行政、大学、企業等に何を期待しますか？」との質問に、出合いの場の設置二一％、企業と求人に関する情報の提供、三三％、

就職支援に関する情報の提供二一％、相談できる窓口の設置一八％、という回答が出ている。これらの要望に応えるべく支援策として京都では、

まず就職ガイダンスの充実があげられる。面接対策、筆記試験・適性検査対策、企業の雇用慣行等日本での就職活動の基本スタイルを周知する。



就職ガイダンスでの質問風景

また企業の留学生採用方針や留学生に期待すること、先輩たちの体験談等を増やす。次に、留学生向けの具体的な就職情報の提供や会社説明会の拡大が求められる。そうすることにより先のジョブフェアでの企業との多少のズレも緩和されるのではなかろうか。とはいっても就職活動は本来留学生自身が行うものであるもので、留学生が自立心を持つよう促すためには日頃から各種の就職支援策を通して留学生に働きかけることが肝要である。

このような就職支援事業も回を重ねるごとに実のあるものになっていき、企業と留学生の良き出会いに繋がっていったらと思う。そのためにも今後も大学、行政、関係機関等のより一層の連携が不可欠である。